



そよ風



大阪市立大学
医学部附属病院

発行/大阪市立大学医学部附属病院
〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
TEL 06-6645-2121
http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/

2012年10月
第17号



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

ごあいさつ

病院長 石河 修



平成24年4月より病院長に就任いたしました、石河 修でございます。どうぞよろしくお願いいたします。永い歴史を有し、市民の皆さまに支えられてきた市大病院の病院長を引き継ぐこととなり光栄であるとともに、その責任の重さを実感しております。市大病院は、大阪市立大学医学部の建学精神である「智・仁・勇」にもとづいて、市民の健康に寄与する質の高い医療を提供すること、こころ豊かで信頼される医療人を育成すること、医療の進歩にたゆまぬ努力を続けることを病院理念として、教職員一同が誇りをもって医療を提供できる病院を目指して一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。私たちは、より良い病院づくりのために、日々、業務の見直しや

改善を行うとともに、患者さまの治療上の不安や悩みの相談、医療費や福祉の相談など総合的に支援できる体制づくりを推進し、さらに手術室の増設を行い手術待機日数の短縮を図るなど病院環境の整備に努めています。その活動を多角的な観点から評価してもらうために、本年6月に病院機能評価Ver.6.0の認定をいただいております。さらに、平成26年春、天王寺・阿倍野ターミナルに現在建設中の複合ビル「あべのハルカス」のメディカルフロア21階に「先端予防医療センター」(仮称)を開設いたします。同センターでは、大学病院が持つ専門性の高い人材と高度先進医療を活かして地域医療機関と連携しながら5大疾病(がん、脳卒中、心臓病、糖尿病、精神疾患)や生活習慣病や肝臓病などの早期発見を目的とする健診事業を実施します。病院を取り巻く医療環境は大きな変革期を迎えていますが、教職員が誇りを持って皆さまに安心と安らぎを与えることのできる病院環境づくりを目指してまいります。引き続き皆さまのご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します。こころ豊かで信頼される医療人を育成します。医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます。

(大学病院のめざすところ) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

診療科紹介

肝胆膵外科

肝胆膵外科では肝臓、胆嚢や胆管、膵臓などの良性および悪性疾患を対象として診療を行っています。悪性腫瘍では肝細胞癌、胆管癌、膵癌などの方が多く、なかでも肝細胞癌に対する肝切除手術数は全国トップクラスです。また、腹腔鏡(補助)下手術を積極的に導入し、近年、その手術数が増加しています。

肝細胞癌に対しては肝切除術のみならず、ラジオ波熱凝固療法、経動脈的治療を行うとともに、抗ウイルス療法(術後インターフェロン療法など)を併用した総合的な治療を行ってきた結果、肝細胞癌に対する長期治療成績が飛躍的に向上しました。現在、当科は肝癌診療ガイドラインの作成に参画するなど、本邦での肝細胞癌治療の牽引役を果たしています。また、肝胆膵領域の癌に対する新規化学療法を含めた臨床試験にも積極的に参加し、新たな治療法の開発にあたっています。さらに、小児外科とも連携して先天性胆道拡張症に対する外科治療や末期肝疾患に対する生体肝移植も行っています。今後も、肝胆膵領域の悪性・良性疾患に対する最先端治療法の開発・導入と、他科との協力による総合的治療体系の確立・実践を目指していきたいと考えています。



肝胆膵外科(食道外科)

消化器外科、特に食道外科に重点を置いて消化管疾患の外科治療を行っています。このうち食道癌手術は年間約100例と全国トップレベルです。食道癌手術は胸部、腹部、頸部に手術が及び、消化器手術のなかでも最も侵襲の大きな手術です。我々は少しでもこの侵襲を軽減し、かつ根治性の高い手術を模索し、本邦でも最も早く胸腔鏡手術を1995年より導入しました。これまでに430名の患者さんにこの手術を施行し、世界でも最も多くの経験を積んでまいりました。この結果、最も良好な成績をえることができました。術後の呼吸機能が良好に保たれ、痛みも少なく、合併症も有意に減少させることができました。これにつれて術後のQOLも有意に向上しました。患者さんの中には術後もマラソンや登山を術前と変わりなく楽しめるかたもおられます。一方、治癒率も有意に



向上し、精度の高い手術となってまいりました。しかし、胸腔鏡手術は食道癌根治の一手段であることには違い無く、十分な習熟をえた現在も正面から消化器疾患に向かいあい、各患者さんにとって最も安全で確実な医療の信念を貫いております。一方で習熟した手技を駆使して質の高い外科を提供致しております。

医療安全だより

～安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり～

第11回 安全・確実な採血のための工夫について

～患者さんの間違い防止のための3点照合～ 中央臨床検査部

中央臨床検査部で行う採血は主治医の検査オーダーに基づき、臨床検査技師や看護師が行っています。もし患者さんを間違えて採血をしたら大変なので、中央臨床検査部では患者間違い防止のために様々な工夫をしています。その中の一つが【3点照合】です。

3階の採血室では採血業務支援システムで各採血台のモニターに患者さんの検査オーダーや採血前注意事項を表示していますが、【3点照合】もこのシステムで行います。



(図1)採血受付票
採血受付と同時に渡すピンクのカードです。



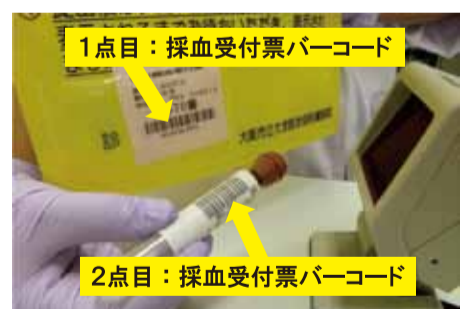
採血受付票は、3点照合の1点として必要となりますので、名前が呼ばれたら採血台で採血担当スタッフに提示してください。

採血担当スタッフは、採血台に患者さんをお呼びしてから以下の3点について確認をします。

1点目は、採血受付票のバーコード(図1)を読み取ります。2点目は、採血管に貼られているバーコード(図2)を読み取ります。3点目は、患者さんの生年月日をおたずねして(図3)画面で確認します。

以上の3点が合っていることを確認して初めて採血を行います。そのため万が一、異なる患者さんをお呼び出した場合でもモニターで警告されるため、同姓同名の患者さんやよく似たお名前の患者さんでも間違えて採血することが防げます。採血受付票を無くしてしまった場合など、3点照合が不可能な場合は、診察券や予約票に記載された患者さんのID番号とお名前を確認させていただきます。

採血室では、スタッフ一同が「患者さんの血液を安全、安心、確実に採取し検査結果を正確迅速に届ける重要な役割を担っている」という自覚と誇りを持って日々業務に励んでいますので、ご協力をお願いします。



(図2)採血管バーコードと採血受付票確認



(図3)モニター画面

3点が合っていることを確認してから採血します

希少難病への取り組み

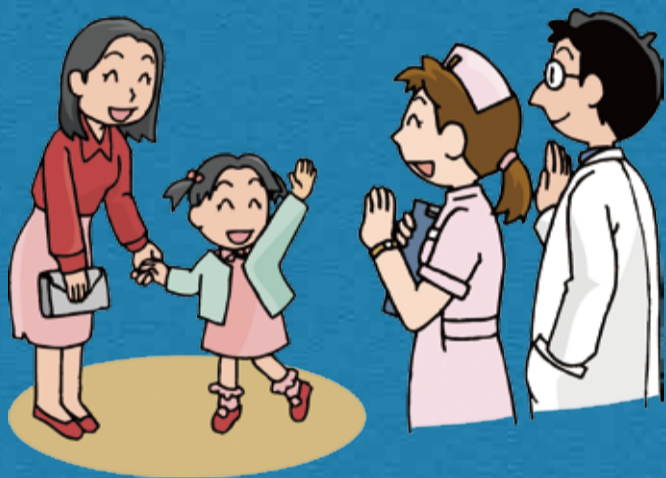
頻度が数万人～100万人に1人と少なく、かつ効果的な治療法が無い疾患に対し、国は難病に指定し、治療の研究や福祉対策に力を入れています。

小児科では、これら希少難病の小児期のみならず成人期に至るまでの専門的診療を行っています。さらに、「PKU親の会」、「日本ムコ多糖症親の会」、「メンケス病親の会」のサポートを行い、小児期のみならず成人期の患者さんの医療相談にも応じています。

特にライソゾーム病については関西各地から患者様が来られており、特にムコ多糖症の診療では西日本の中心となっています。近年は、ゴーシェ病、ファブリー病の新規治療薬の臨床治験に参加し、治療薬の早期国内承認に協力しています。

希少難病の症状は多臓器に及ぶため、複数科による連携診療の充実に努めています。定期検査は短期入院のセット検査とするなど、患者様およびご家族の労力負担をできるだけ軽減するよう努力しています。

また、希少難病のほとんどは遺伝性であることから、臨床遺伝専門医が予約制で遺伝カウンセリングを行っています。



大阪市立大学医学部附属病院は 病院機能評価認定病院です

● 認定取得(更新)のご案内

病院機能評価(Ver.6.0)の認定を2012年6月15日に取得しました。

当院は2007年5月に病院機能評価Ver.5.0を認定されました。期間5年の満了に際し、2012年3月に認定更新のため受審、2012年5月28日付でVer.6.0の更新認定がされました。



● 病院機能評価とは

医療を見つめる第三者の目。それが病院機能評価です。

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者(サーベイヤー)が中立・公平な立場にたつて、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。(公益財団法人日本医療機能評価機構HPより)



肝炎患者支援手帳『健康手帳エル』

Aさん「健康手帳エルって知ってる？」

Bさん「何それ」

Aさん「肝炎ウイルス検診や医療機関でやったB型・C型肝炎検査で陽性反応が出た人に使ってもらいたい手帳やねん。」

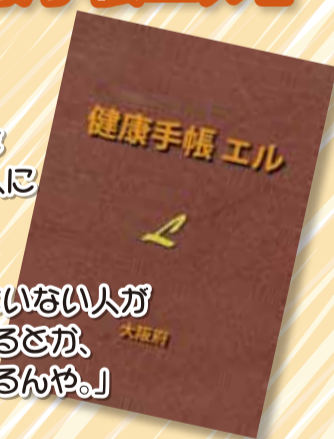
Bさん「へえ～。それで何すんの？」

Aさん「肝炎ウイルスについて正しく理解できていない人が以外と多いねん。触っただけで感染するとか、ありえへんこと信じてる人がまだいてるんや。」

Bさん「えっ感染せえへんの？」

Aさん「あんたもか。この手帳には肝炎ウイルスの感染力、感染経路や感染予防のことが書かれてんねんで。」

Bさん「へえ～そうなんや。」



Aさん「それだけとちゃうで、肝炎の専門でない医療機関から専門の医療機関に紹介してもらえる用紙も付いてるから、かかりつけ医の先生も安心して紹介できんねんで。」

Bさん「その手帳どこでもらえるの？」

Aさん「市大病院の相談窓口でもらえるで、ほかにも阪大病院、大阪医科大病院、関西医科大病院、近大病院とかでもらえるそうや。」

Bさん「その手帳なんぼなん？」

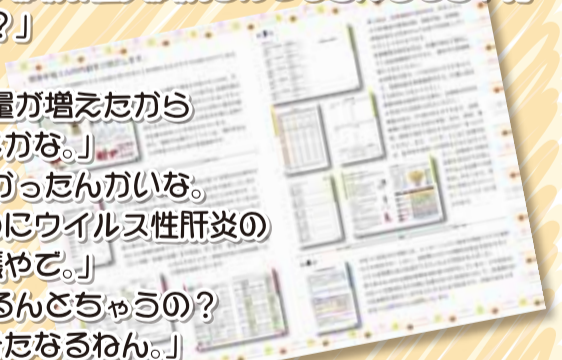
Aさん「タダらしいで。」

Bさん「最近、アルコールの量が増えたからその手帳もらいにいこかな。」

Aさん「人の話し聞いてへんかったんがいな。アルコール肝炎やなしにウイルス性肝炎の患者さんのための手帳やで。」

Bさん「アルコールも感染するんとちゃうの？他人が飲んでたら飲みたなるねん。」

Aさん「こらあかんわ。」 チャンチャン



大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分
電話 (06)6645-2121 (代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、内分泌・骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年内科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

